



国立研究開発法人
科学技術振興機構

理事長

橋本 和仁

はしもと かずひと

2022年4月1日付で国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の理事長に就任いたしました橋本和仁です。どうぞよろしくお願いいたします。

今日、「新型コロナウイルス感染症の蔓延」、「従前の資本主義の行き詰まり」、そして「ロシアのウクライナへの侵攻」など多様な問題が次から次へと表れ、世界は歴史上の大きな転換点を迎えようとしています。このような中、科学技術の重要性はますます高まり、その発展が社会から強く求められています。特に近年の科学技術の特徴は、「基礎研究の進展とその成果の社会への展開」が極めて近接している点にあり、ここにも現在の科学技術の意義を見いだせると言えるでしょう。

JSTは、1996年に前身の科学技術振興事業団が設立されて以来、科学技術基本計画および科学技術・イノベーション基本計画の中核を担う機関として、日本の研究開発、それに科学技術・イノベーション基盤の強化を目的として運営されてきました。

「新たな価値創造」に向け、 たゆまぬ改革を

そして本年4月からは「新たな価値創造」に向けて、第5期中長期計画の実施期間に入りました。「知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化」「国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会への変革」「1人1人の多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成」といった国家の基本計画に沿った取り組みをより一層推進してまいります。特に、カーボンニュートラル実現に向けた革新的な研究開発の推進や研究開発戦略の立案・強化は早急に対応しなければならない課題と考えています。

さらにJSTは、国の戦略に基づく新たな取り組みとして、10兆円規模の「大学ファンド」の運用を開始したところであり、「世界と伍する研究大学」の実現に向けて取り組みを進めてまいります。併せて、内閣府の「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」に基づき、「地域の中核となる大学」および「特定分野の強みを持つ大学」の支援に向けた施策を強化します。また、経済安全保障の強化推進のため、先端的重要技術の実用化に向けて強力な支援を行う新たなプロジェクトの創出を念頭にした取り組みも開始いたします。こ

れら以外にも、若手研究者の支援といった人材育成にかかわる事業をなお一層強化してまいります。

最後に、前述のように基礎研究と社会実装が極めて近接してきた状況下で、JSTにはこれまで以上に挑戦的な取り組みが必要であると認識しています。「競争的資金の全体設計」、「科学技術政策のためのシンクタンク機能強化」、そして「職員・組織の意識向上」などを図るべく、理事長としてたゆまぬ改革とマネジメント強化を進めていく所存です。

皆さまのご支援とご協力を何卒よろしくごお願い申し上げます。

役員一覧 (令和4年4月1日現在)

理事長		理事		運用業務担当理事		理事	
橋本 和仁	しおざき まさひろ 塩崎 正晴	きむら まさかず 喜田 昌和	こうだ あきら 甲田 彰				
理事		理事		監事		監事 (非常勤)	
金子 博之	もりもと しげお 森本 茂雄	いしまさ しげる 石正 茂	とくなが りょう 徳永 良				

◆ 経 歴

- 1980年 3月 東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程修了
- 1985年 3月 同 理学博士
- 1980年 4月 分子科学研究所技官
- 1984年 2月 同 助手
- 1989年 9月 東京大学工学部合成化学科講師
- 1991年11月 同 助教授
- 1997年 7月 同 先端科学技術研究センター教授
- 2003年 4月 同 大学院工学系研究科応用化学専攻教授
- 2004年 4月 同 先端科学技術研究センター所長(2007年3月まで)
- 2016年 1月 国立研究開発法人物質・材料研究機構理事長